



2019年7月16日

日本鉄道労働組合連合会

J R 九 州 労 組 「 第 28 回 定 期 大 会 」

新 た な 時 代 を 全 組 合 員 で 切 り 拓 く

～ 役 員 改 選 で 初 の 女 性 専 従 役 員 を 選 出 ～



J R 九 州 労 組 は 7 月 10・11 日 の 両 日、佐世保市で第28回定期大会を開催し、2019年度運動方針を満場一致で決定した。

中原博徳中央執行委員長（J R 連合副会長）は挨拶で、「新たな時代をどのように切り拓いていくのか、確固たる目標を据えながら将来に踏み出していこう」と訴え、主要課題として安全確立、組織強化、労働条件向上、政策課題解決の4点を挙げ、それぞれの課題に対する所信を述べた。

また、大会には、来賓として連合九州ブロック連絡会や連合長崎などの労働団体、九州労働金庫や全国交運共済生協九州事業本部などの友誼団体、J R 連合国会議員懇談会及び21世紀の鉄道を考える議員フォーラム所属の国会議員・秘書らが出席した。J R 連合からは尾形泰二郎事務局長と北村公次労働政策部長が出席した。

議事では、執行部が提案した議案に対して、27人の代議員・特別代議員が発言し、担当執行委員答弁、芦原秀己書記長の集約答弁を経て、すべての議案が満場一致で採択された。また、役員選出では、田頭正憲中央執行副委員長をはじめ4人の役員が退任し、再選された中原委員長をはじめとする新執行体制を確立、J R 九州労組初の女性専従役員も誕生した。

さらには、新たに策定した中期労働政策ビジョン「チャレンジ2023」を提起し、同ビジョンで掲げた中期目標の達成にむけて、全組合員が一丸となって取り組むことを確認した。